

騎士と王子の秘密の夜





墮天せし者
片翼の魔王が
人の世に現れて
百余年…

天地には魔物が溢れ
今なお人々を
脅かし続けていた

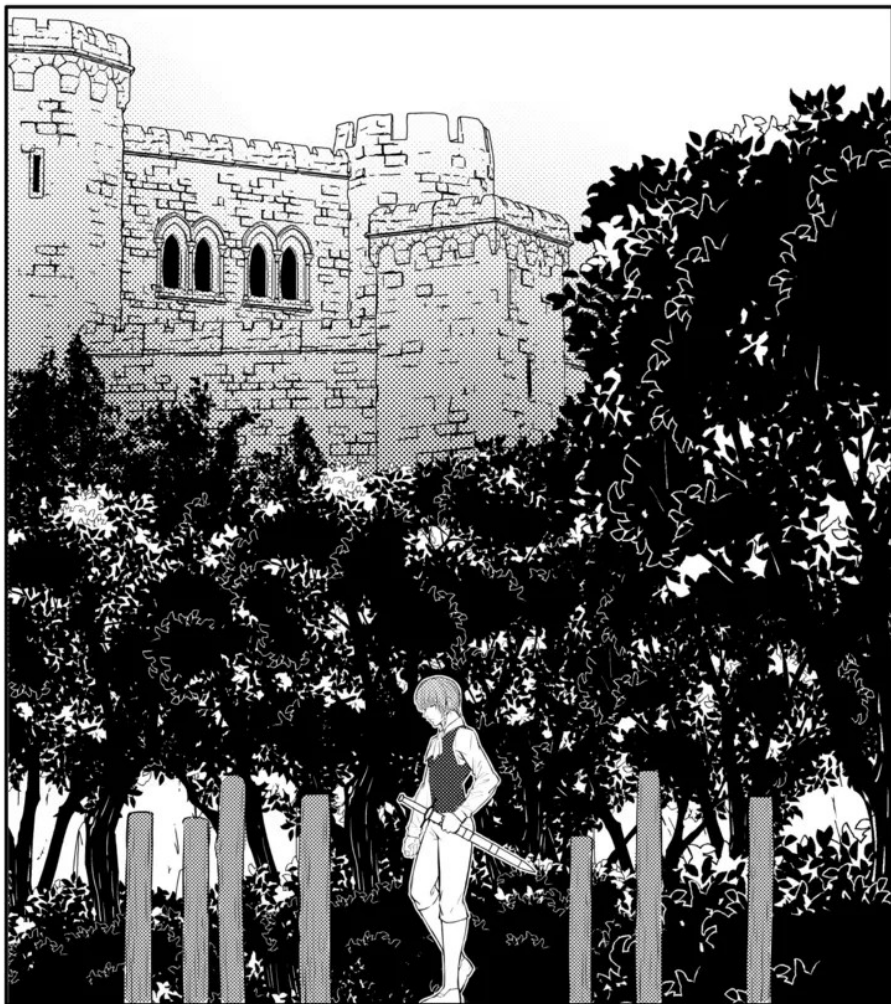
そして今
一つの王国に…

不吉な影が這い寄る

ズ!

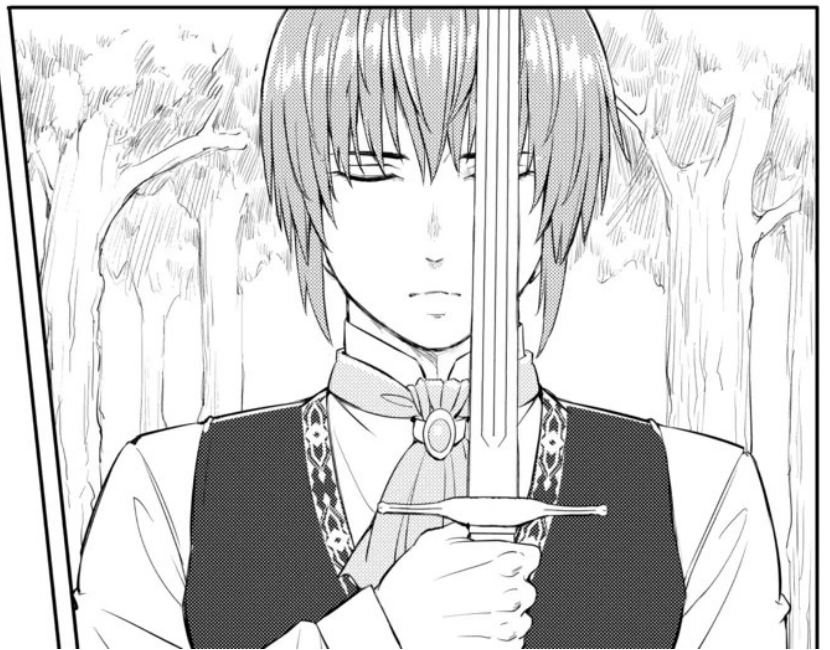
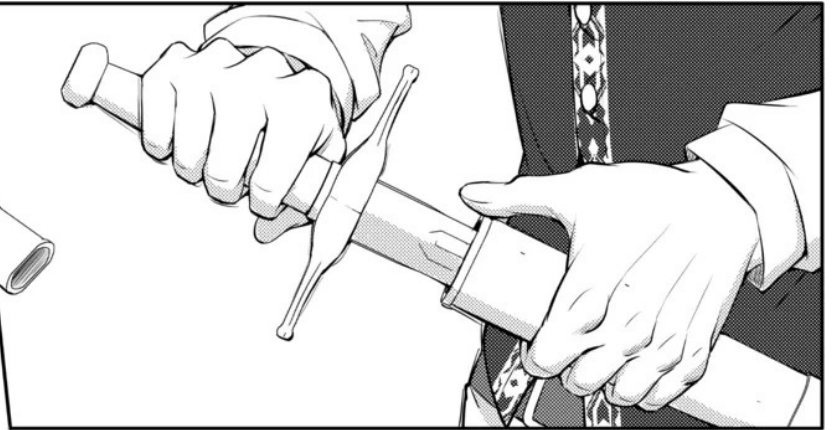
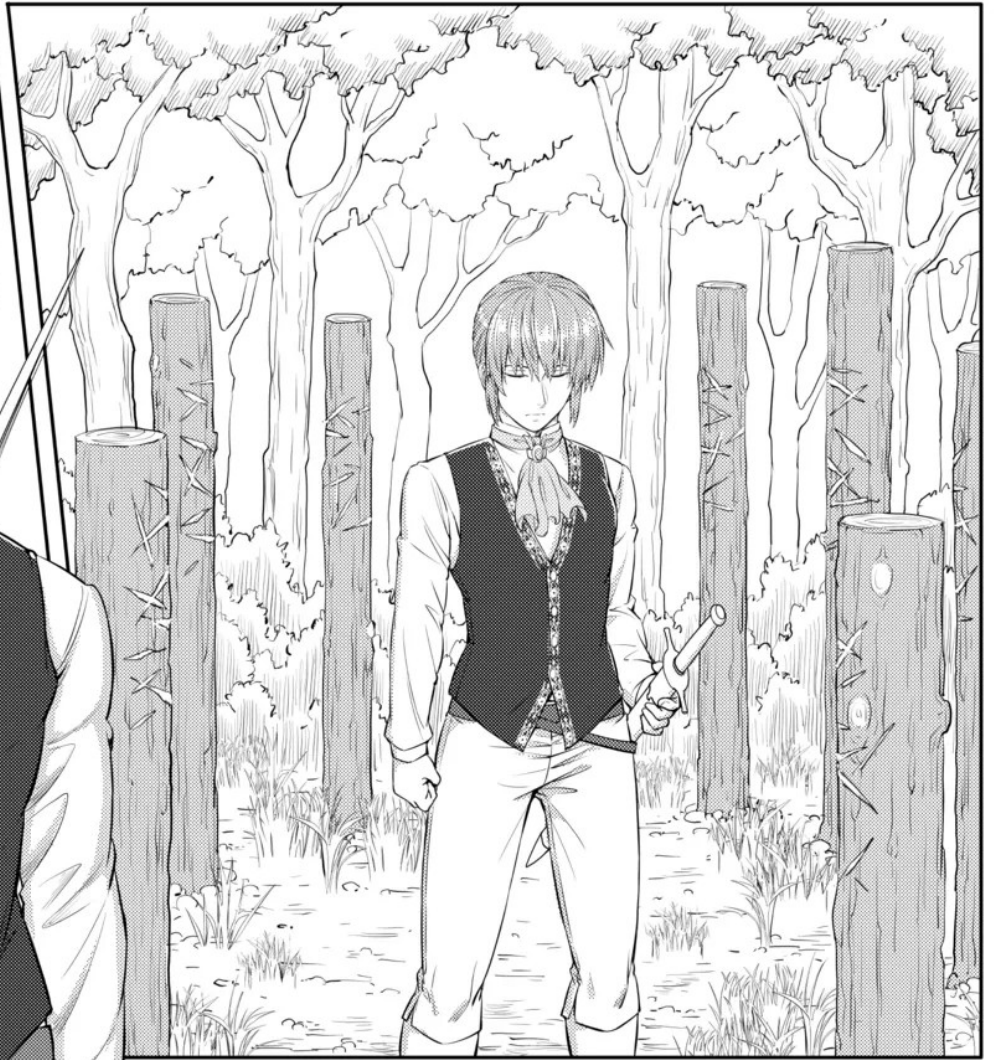


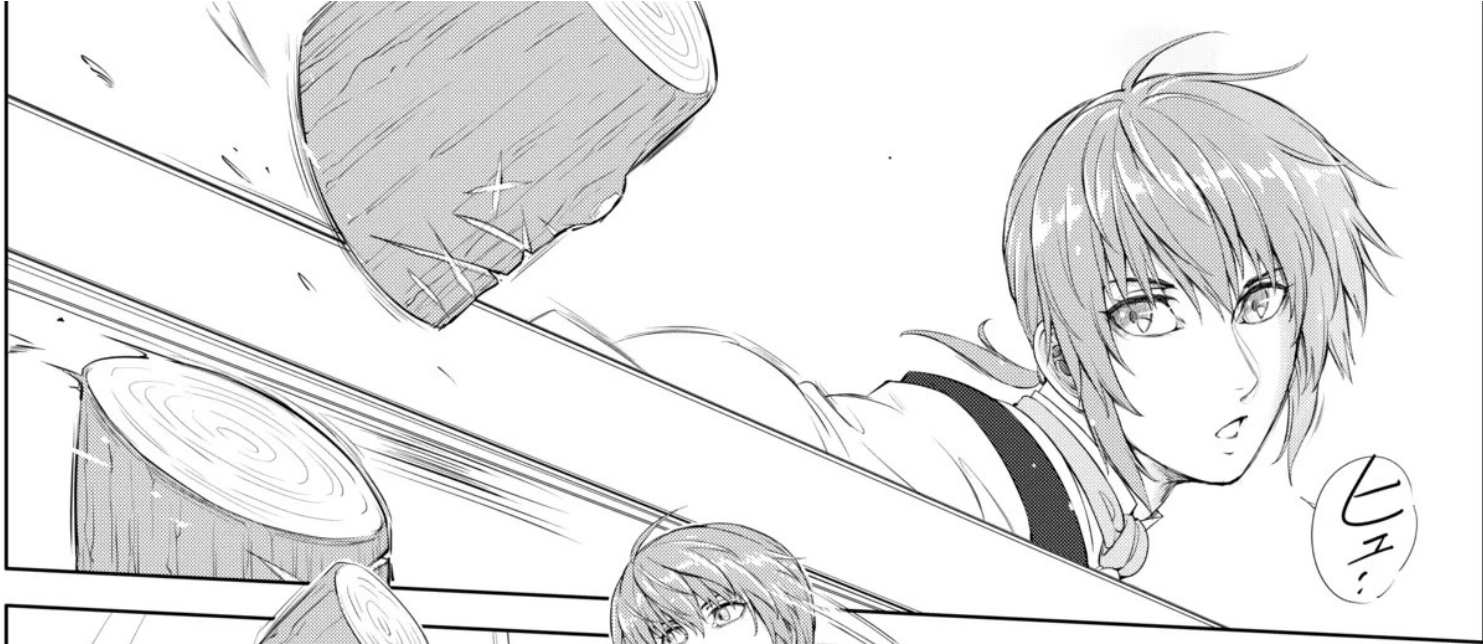
黄金歴847年
ファルシア王国



ふいふい

ふいふい







太刀筋を迷うと…

あっと…



あ

ズル!



おっ

とっと…



…ひどい人ですね

気配を消して私の拙い剣技を見ていましたね？



や…やあレイナード

いつの間にか…

斬れるものも斬れませんよ

フェリル殿下

申し訳
ありません

出立前に殿下の
お顔を見て
おきたかった

彼を含む三人の
聖騎士はまさに
一騎当千…
この王国を
守る要である

ウォルター・
ガーランズ卿

レイナード・
ソロモン卿

マクシミリアン・
クレイブス卿

それに…

この王都にも
不穏な気配を
感じます

城の裏庭とはいえ
お一人で出歩くのは
お控えいただきたい

レイナードは
私の剣の師だ

そう進言に
参った次第…

だがここ数年…
魔物たちの王国への
侵入はおびただしく

聖騎士は対応に
追われ、遠征を
繰り返していた

今は半年に一度
会えるかどうか…

僕のことより
ご自身の身を
案じてほしい



帰った
ら…

また冒険譚を
聞かせてくれ



もちろん
です…



此度も必ずや
生きて戻り…

御身の
元に…



8年前…彼は
私の剣術指南役
として王都に
召し寄せられた





幼かった私は
こう思った
ものだ



夢にまで見た
理想の騎士



絵物語から
抜け出てきた
に違いない

この華麗な
若武者は…



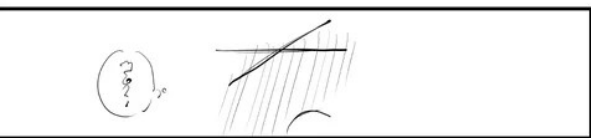
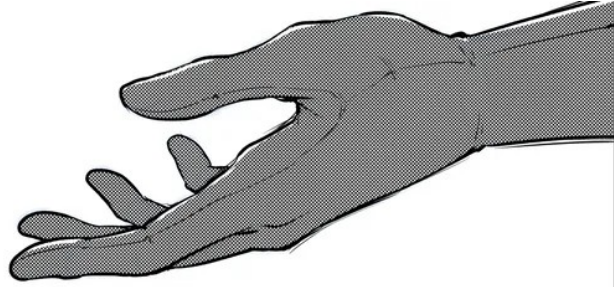
剣術と…



彼が私に授けて
くれたものは…



恋する悦びよろこび



：そう時間は掛からなかったけどね

悦びだけではないことを知るのに...

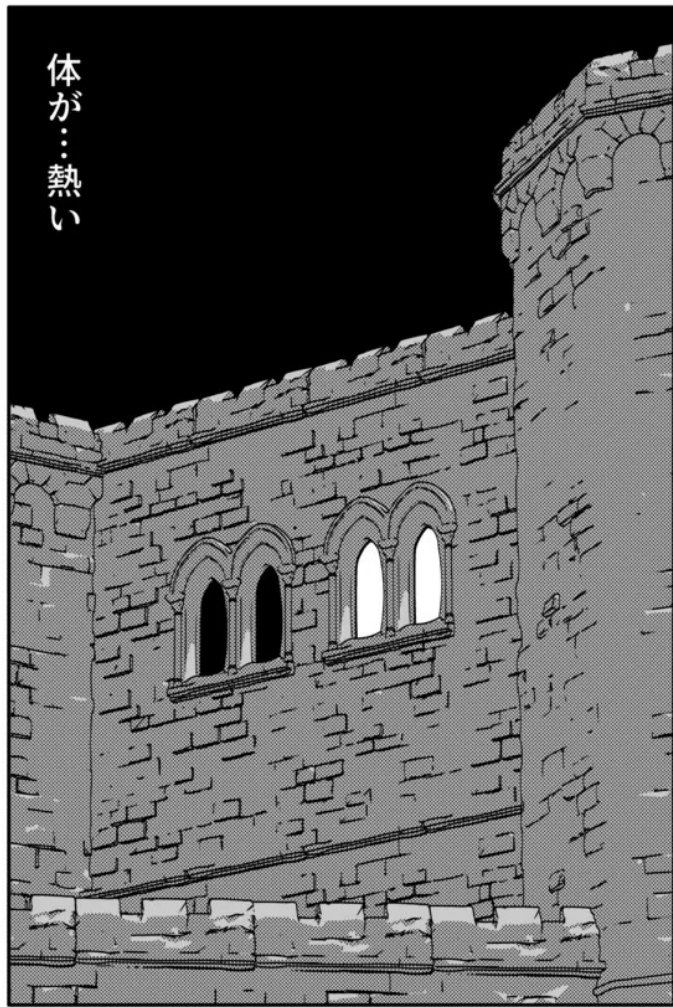




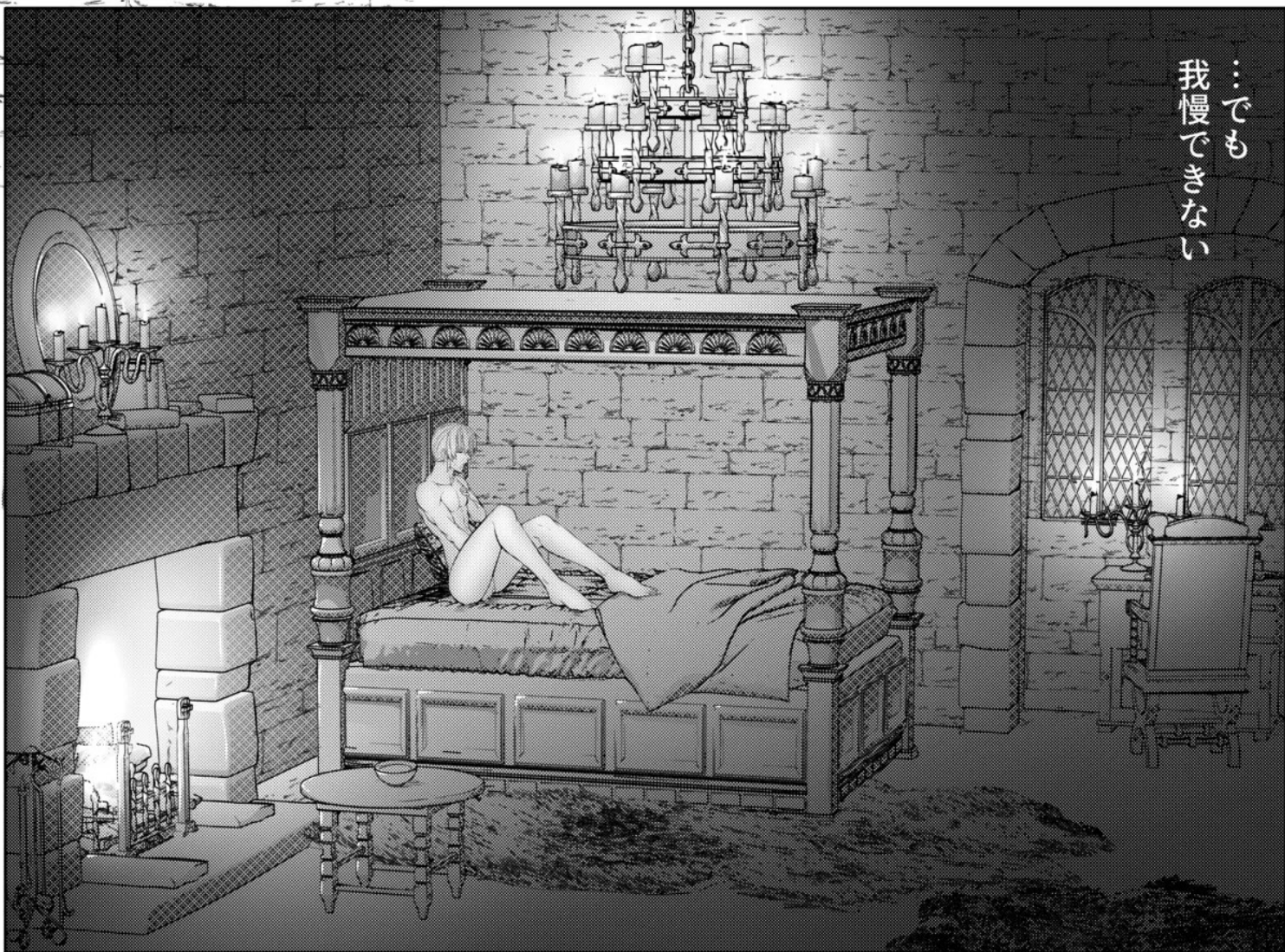
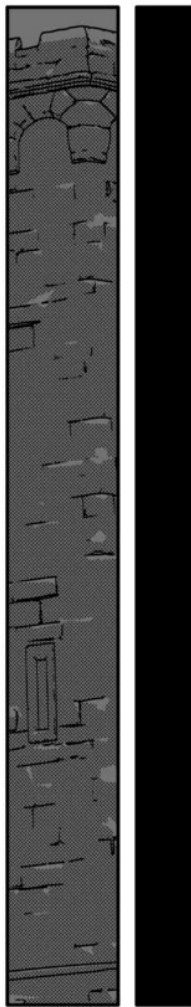
彼は戦いに赴く
というのに…



…こんなこと



体が…熱い

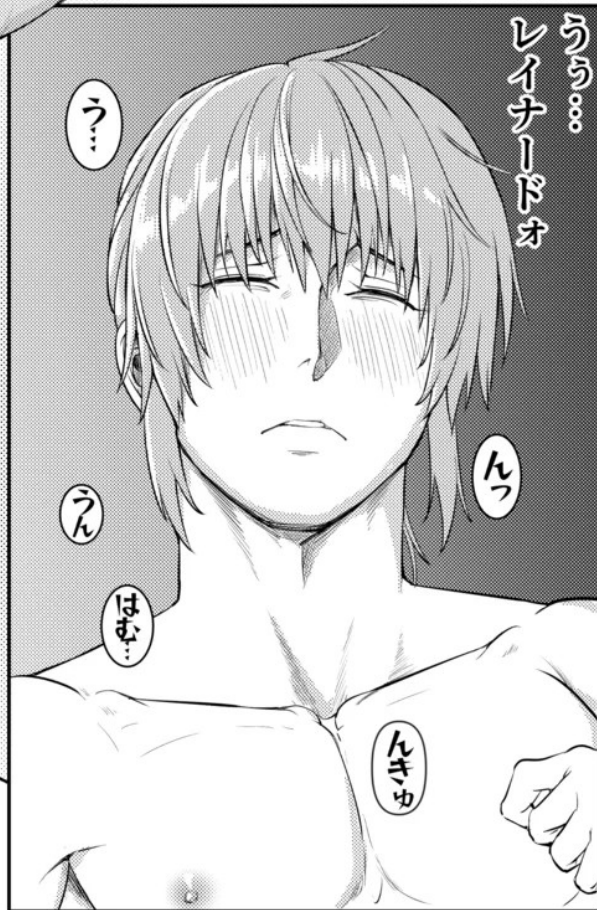


…でも
我慢できない

身体が熱く疼いて…
止められない



うん…
レイナードオ



会いたい…



もっと一緒に
いたいよお…



彼に：
抱かれない



キ...ス...
したい



レイナード

...好き

ハッ
ハッ

大好き...

大好き
だよ...



...わかってる

あっ♡

んっ

あっ

はあっ♡

神に仕える
聖騎士と
そんな俗事
は出来ない



な!

何者か!



寂しい
ことを仰る



レッ
レッ

エエエエ!



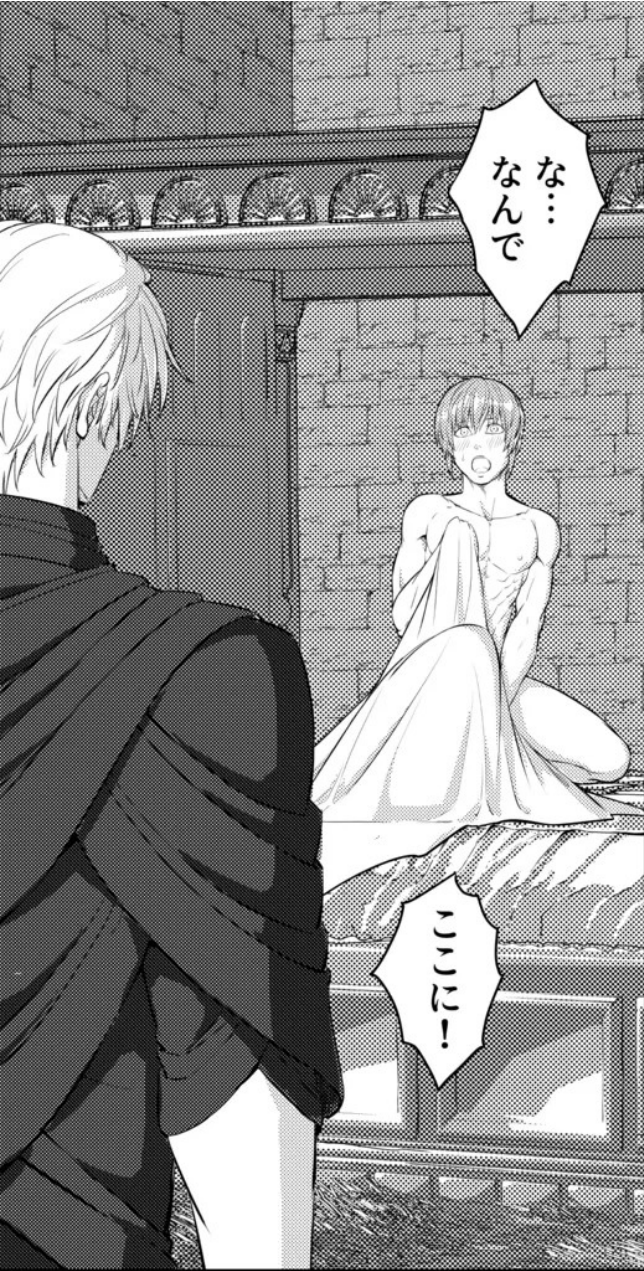
お会いした
ばかりでは
ありませんか

今朝:



え?

ええ?



な…
なんで

ここに!

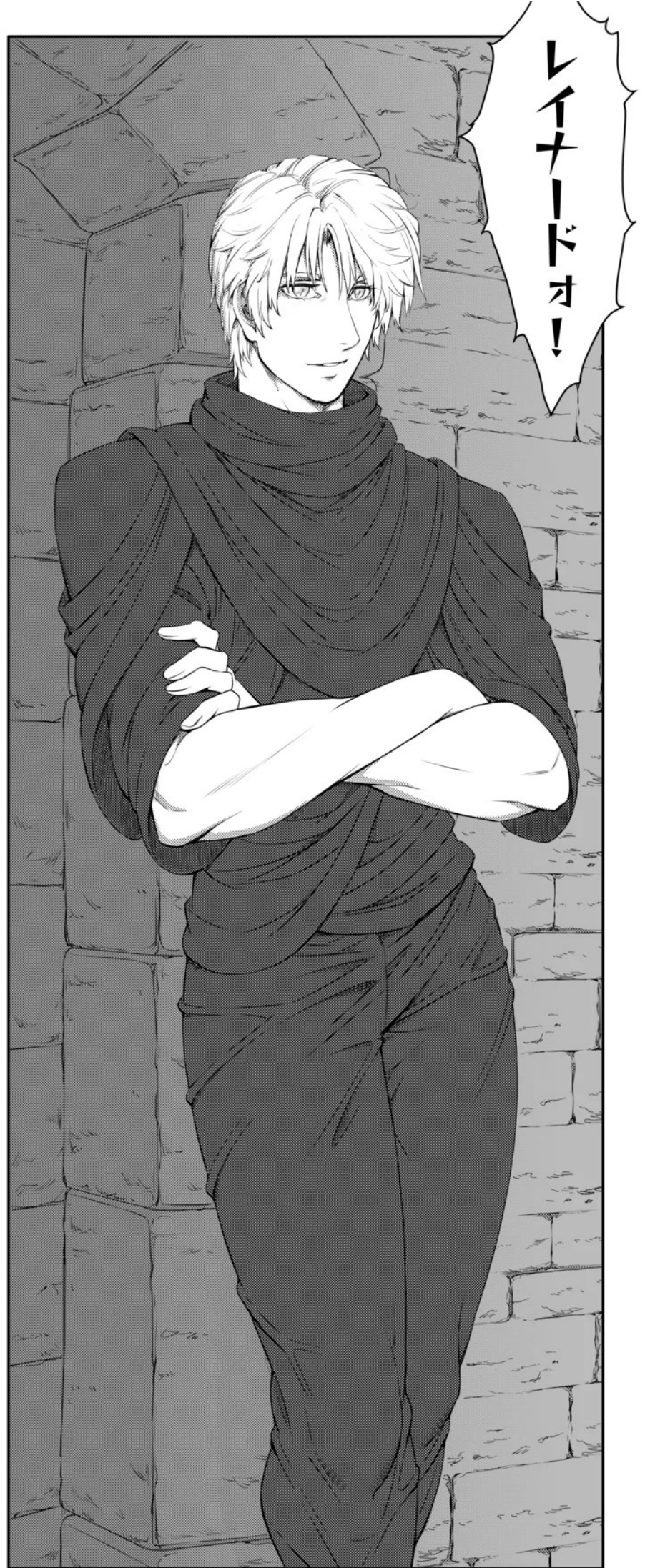


え…
遠征に

(ハ?)

(ハ?)

出かけた
はず…じゃ



レイナードオ!



ですから
今宵は…

ご所望の
ものを
ここに



予定を
変更いたし
ました…



騎士として
殿下の想いに
応えることが

急務で
あると…



そう思い
至った
のです

レ…

レイナード？



な？！

わ？

77

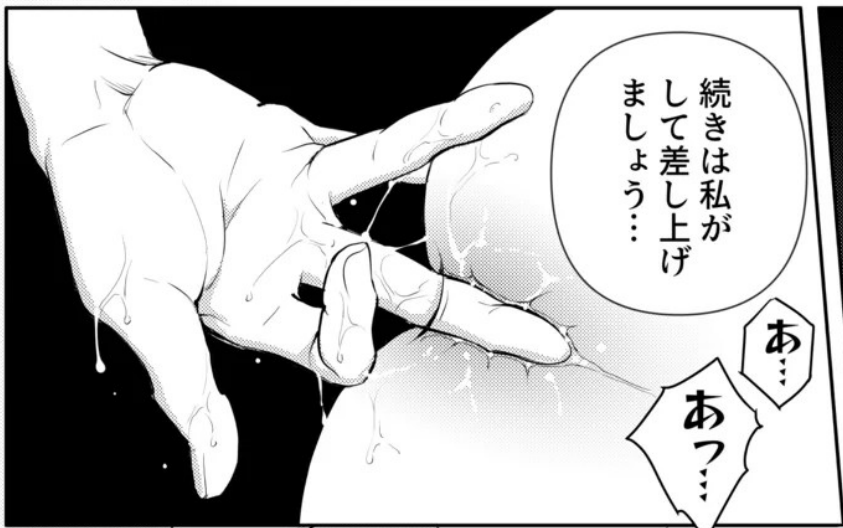




レイナードオ

何を…

レ…



続きは私が
して差し上げ
ましょう…

あ…

あっ…



お楽しみの
邪魔をした
お詫びです



はあっ♡

んあっ♡

ニツツ



ふ…
ふ&…



いじっている
のですか？

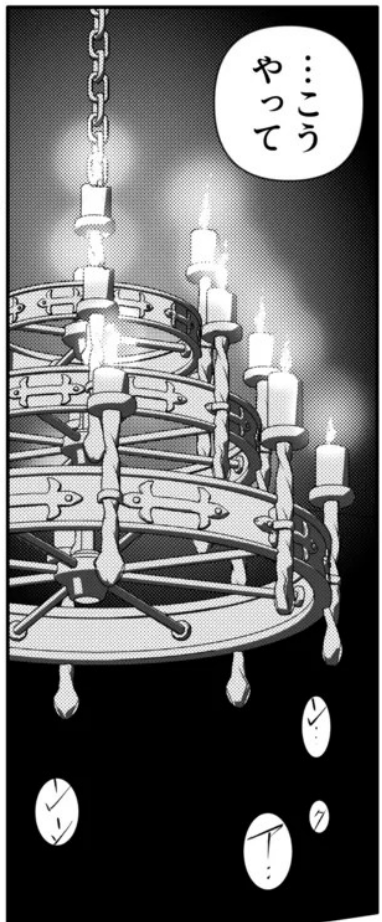
毎晩
ここを

あつ…

んは…

ちよつ…
待つて

あふう！
あ…



…
やっ
て



アッ
アッ
アッ



あつ…

出ちやうう

ダ…
メエ

はあつ

出ちやう
よお！

あつ



ああ：
素晴らしい



お尻だけで
こんなにも
感じるなんて

受け入れ
準備はもう
出来ている…

あ…

あう

うフ…



…という
ことですか



本当に…

アッ

ッ

ッ

ッ

ッ

ッ

求めていた
のですねえ

ッ



ああ…
凄い

初々しくて
やわらかい

なのに凄く
締めつけて
くる…



ハウウ

いきなり
すぎてえ

わかん
ない…

なんか

お腹あ…
ギユ…
なる



男が中に
入ってくる
心地は…

いかが
ですか？



嬉しい
気持ちいい

なのは何だろう？
この違和感は…



ハ
だけど…
しゅごく

気持ち
いい…



ヒヤ

何も…

ダメ

違いは
ありません



でも…
聖騎士が…
こんなこと

今日の…
あなたは

なにか
いつもと
違う…

ア

ン



何も、です
：殿下

激しッ

イイ

これまで
と同様：

私はただ
貴方が望む事
を成すだけ

変に…

なっちゃん
…からあ

奥を…

ぐりぐり
しないですえ

ああ…

さあ…
もっと

乱れま
しょう

そうやって
悶えるあなたは
実に愛らしい

如何
ですか？

後ろから
抱えられ
激しく
突かれるのは…

イヤ
アツ

アツ

まるで
犯されて
いるようで

こうすれば
さらに…

アウウ

気持ちよく
なれますよ

興奮する
でしょう？

ウウ



やっぱり
おかしい

そ……お

そんなに
……つよ……く

アッ

体が求めて……
止められない

ウウ

し……し……
……し……ち……や

ハ
ア
ア

……

ダメ

凄くマズい
気がする……けど

ハウ

ダ……メ……エ

ア……ン



話を...

…待てとおっしゃいますが

ちよ…
ちよっと待って…

腰を動かして打ちつけているのは…



殿下の方ですよ？



だっ…て勝手に…

ンツ

ハム

動い…
ちやう



…私の
好みは

ですが
あまり私の
好みではない



そう
ですか

アッ

ハッ

アッ



アッ

その方が
可愛い
ですよ

クウッ



…お人形
のように

アッ

アッ

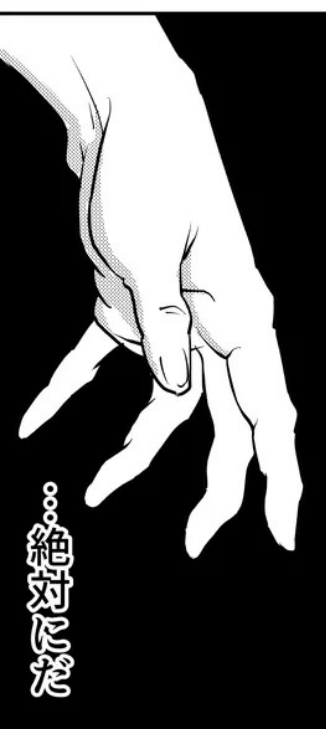
ハッ

アッ

される
がまま…

犯される
がままの
あなた…

ハッ



情欲に流されて

あっ…

あう

何やってんだ
僕は…

さあ…
今度は
お口で…

ウウツ

ング…

ンツ

…この人は
レイナードじゃない





なかなかの
演技だった
ろう？

手薄になった
この城にも
楽々侵入できた



誰？



…ん？
おやあ…

流石に
気付いて
きたかあ



…声が！
ウツ

ウツ

だが…
もう遅い

王族を
亡き者に
すれば

こんな小国は
簡単に滅びる

んぐ...

うぶっ

ぐっ

ズアア!

カハア

な...んだ

身体が燃える
ように熱い...

頭がくらくら
する...

ハア

ハア



ぎょ

いっ



わわ

わ



暗殺は容易だが

それでは



我らのしきとにするるるる

ゲフ

腐敗させ

ごふ

墮落させ

あ...

ああ



るるる

るッ



ま...もの...

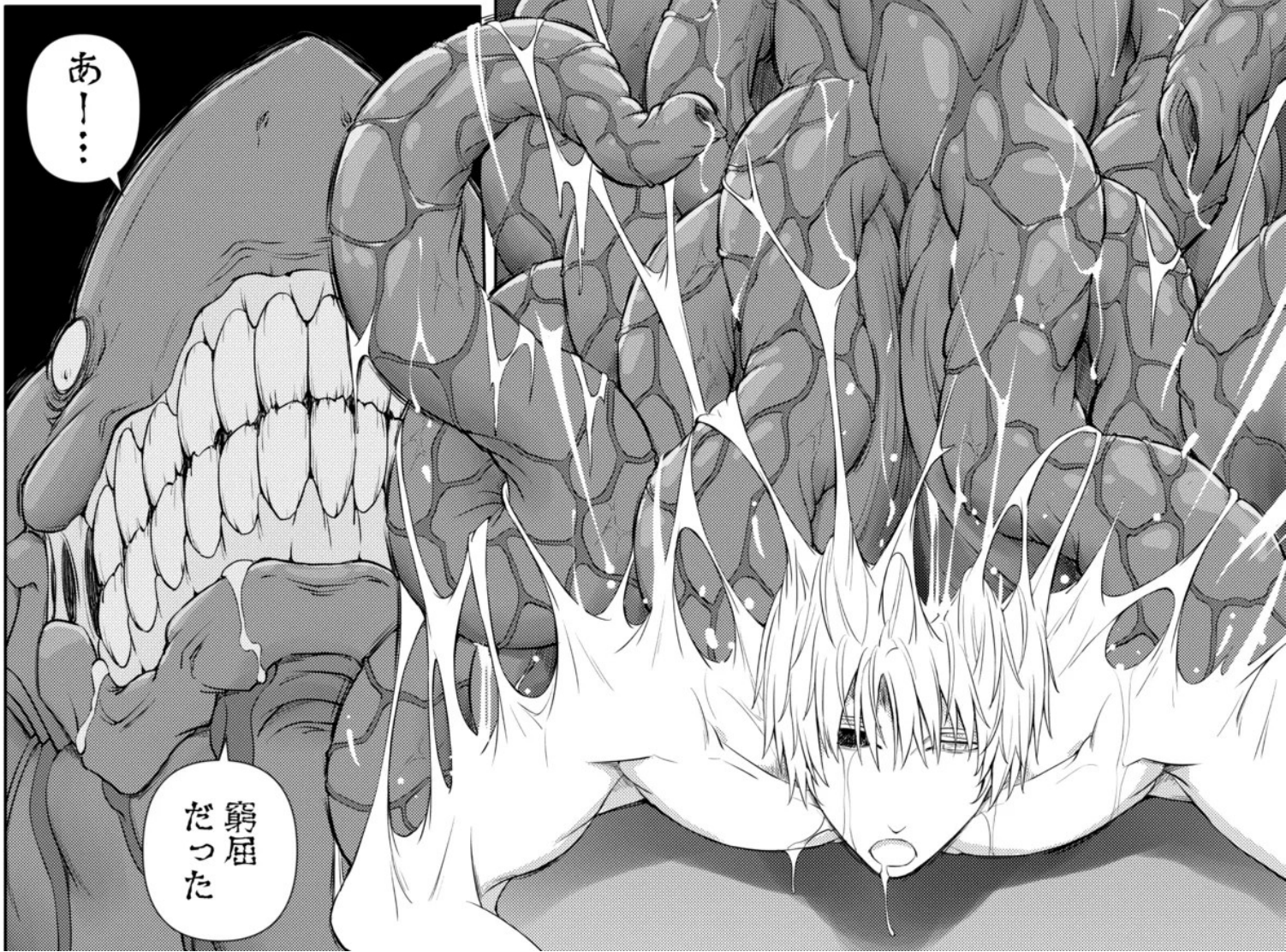
ア

ア!

ア?

ギ
イ
イ
イ
!

ギ
ツ

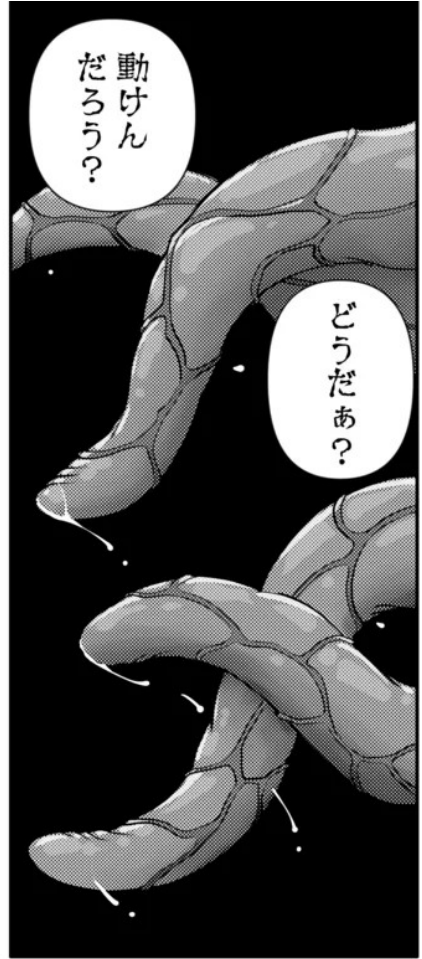


あ！...

窮屈
だった



俺の体液を
飲んだから
なあ：



動けん
だろう？

どうだあ？



これでめえを
好きにできるつて
訳だあ王子様あ

んあつ

ひあつ

やっ…

やめつ
…てえ

はあつ



特に…

ここは
なあ…



ふああ

ダメ…
ダメえ

ダメ
ダメ…



全身の神経も
膨らんでえ

感度百倍
だよおん

あっ

あっ

はあっ

んっ

ツッ!

ハアア!

んんっ



吸うなアア

ヤメツ
ミてえ

イヤ
イッ

スツ

アッ
ニアッ

ハアッ

出るッウウ

出ちやうッウウ

ハアアア!

オッ

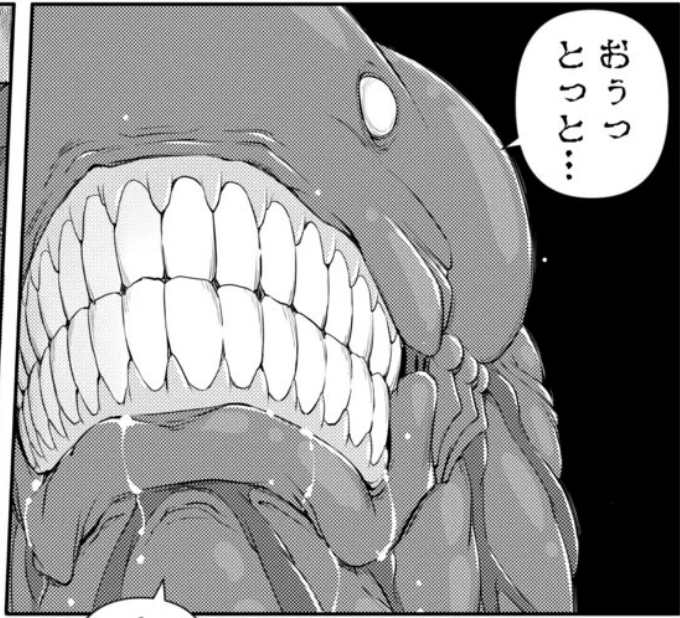
オオイン

オウツ

オオイン!

ツ

ウウツ



おうっ
とことと...



忘れてたあ

フアア

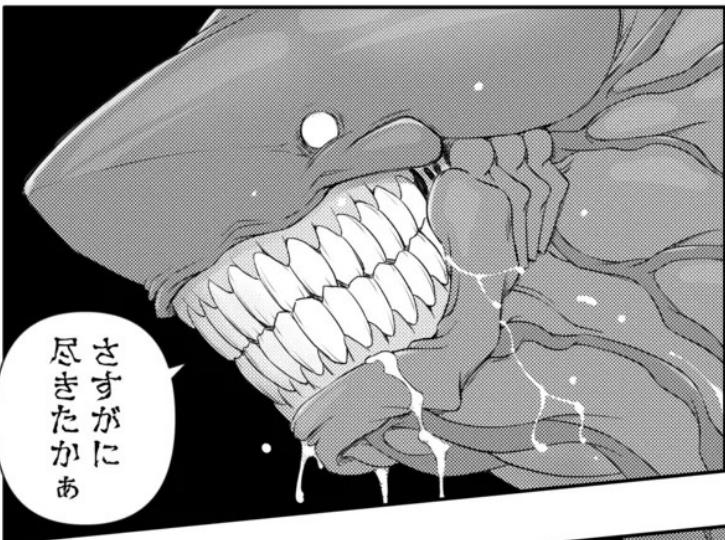
ヒヤア



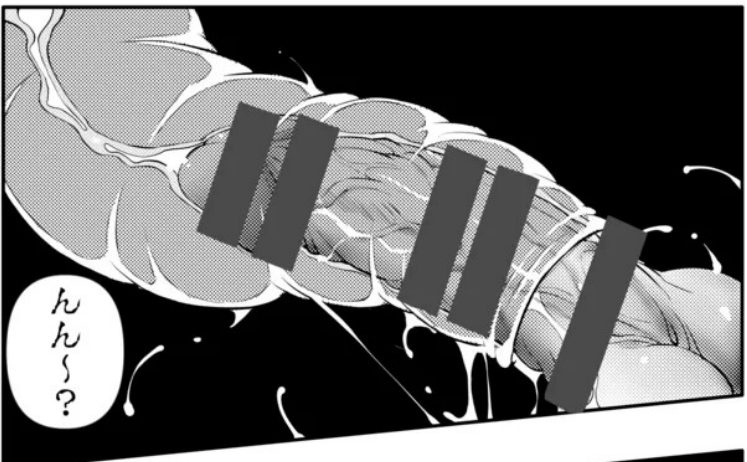
乳首も
たあつぷり
きやなあ

乳首
ラメえ

ラッ
ラメえ



さすがに
尽きたかあ



んん〜？



どう
だった？

あ…

連続絶頂
はよお

はう…



んじやあ

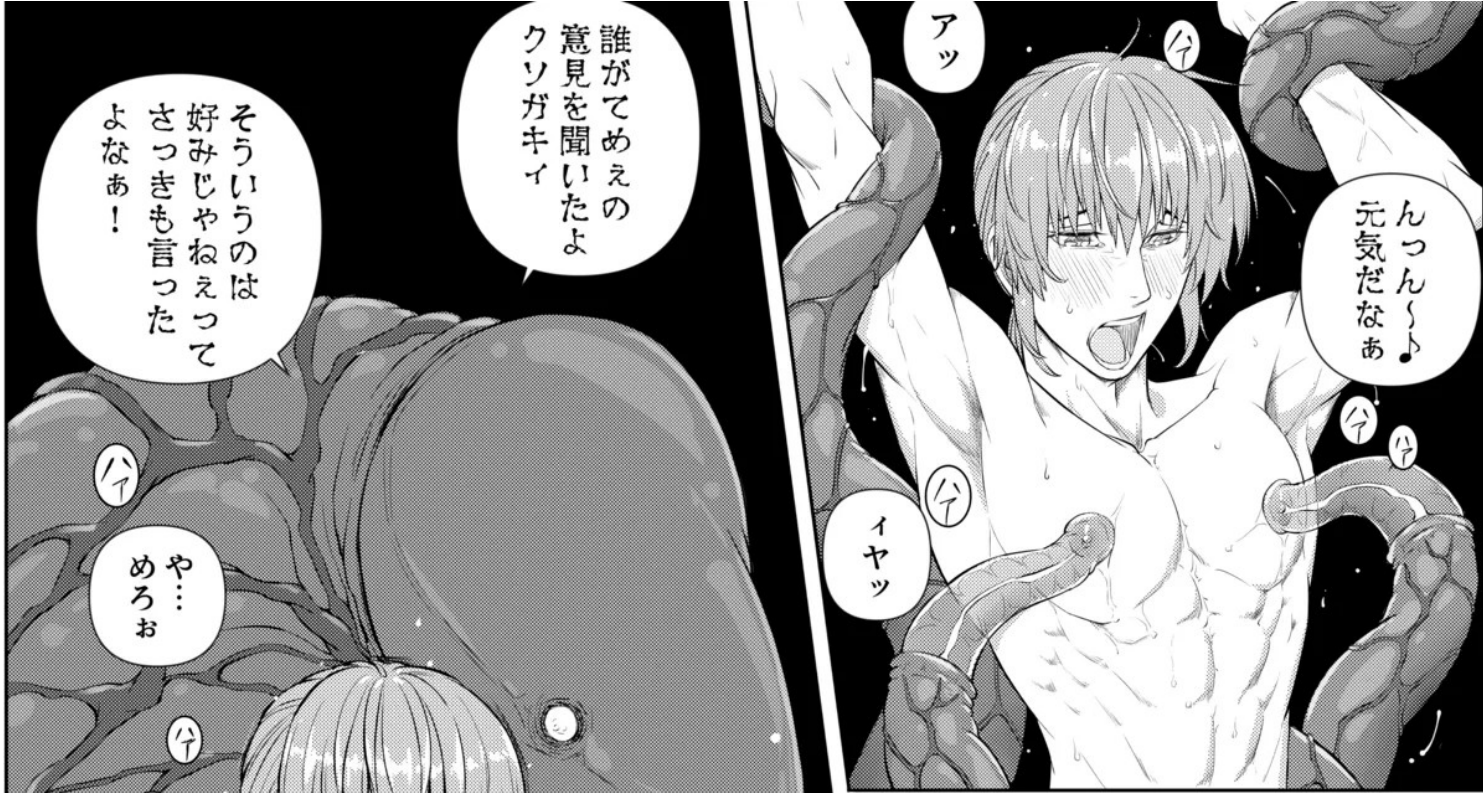
もっと
楽しいこと
しよっか♪

あうう

う…

は…
なせ…

…離せ
よお



んっんっ♪
元気だなあ

アッ

イヤッ

誰がてめえの
意見を聞いたよ
クソガキイ

そういうのは
好みじゃねえって
さっきも言った
よなあ！



でえも♪

そんな
の…

や…
めろお

入ら
ない…

てめえは
黙って…

ガアッ

犯されて
ろっつうの！

アッ

アッ

クア…

今から王子様の
腹ん中にい

魔紋を
刻むぜえ

ウッ

そしたらてめえは
俺が与える快楽にい

抗えなく
なるう！

ヒギイ

クワッ



まずは父王を
殺して王位を
篡奪…

悪政の限り
尽くそうかあ

愛しの
聖騎士様も

ぐちやぐちやに
犯してやろうぜえ



そおれ
魔紋があ

浮かんで
きたぞお！



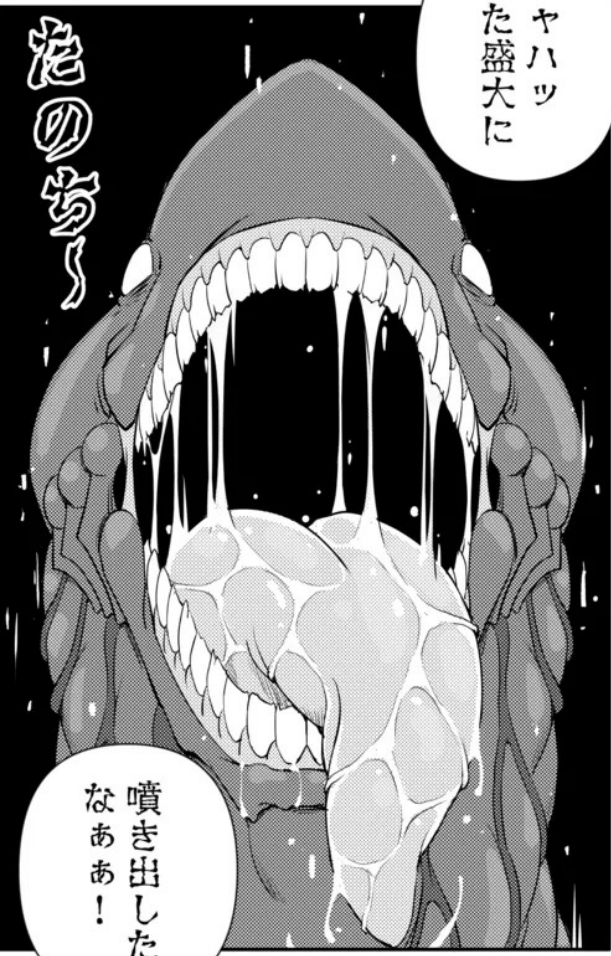
これで
この国はあ

我が主の
ものだあ…



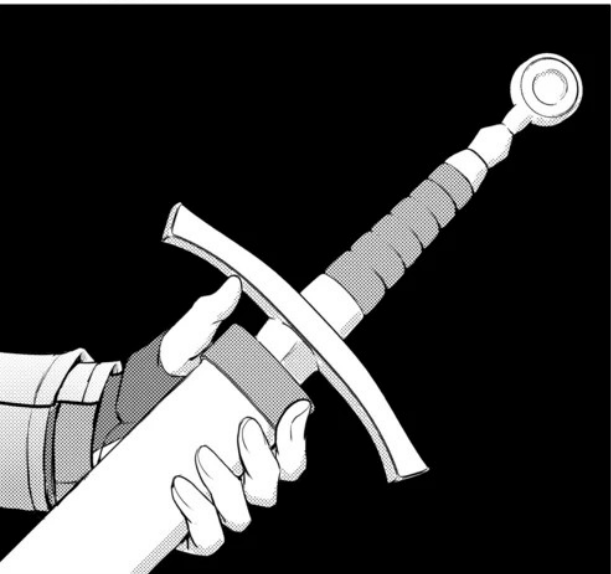


キヤハツ
また盛大に



たのぢ

噴き出した
なああ!



アウウ

アツ

アツ

アツウ



とめ

とめ

ア

ア

不穏な気配を
辿ってみれば…

おっ？

こういう
事か…

「エッ…聖騎士！」

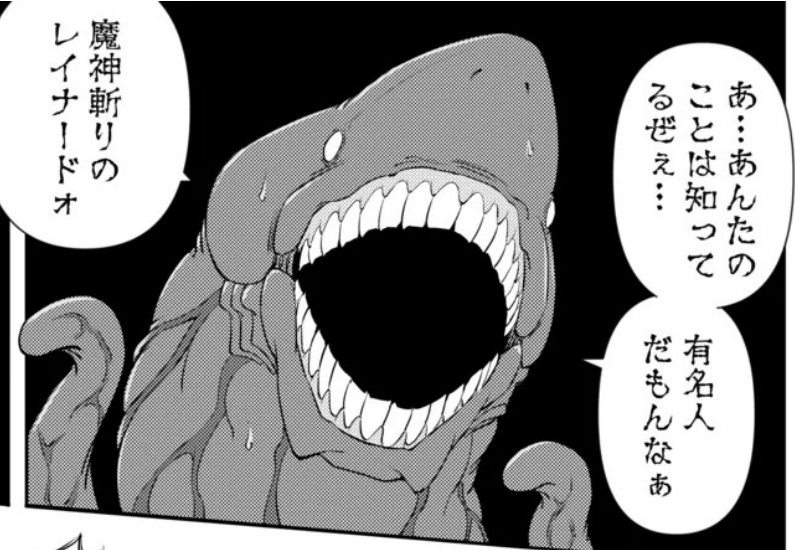
何故ここに…

薄汚い
化け物！

殿下を
はなせ



そんなに怒んなってえ



魔神斬りのレイナードオ

あ：あなたのことは知っているぞえ：
有名人だもんなあ



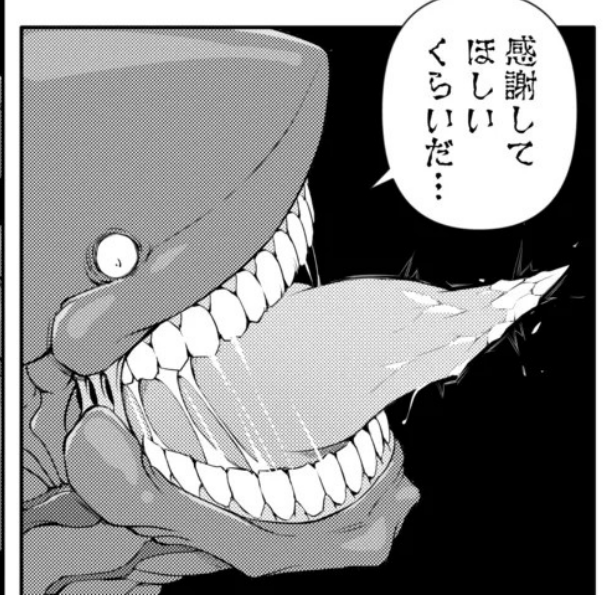
ゼツ！



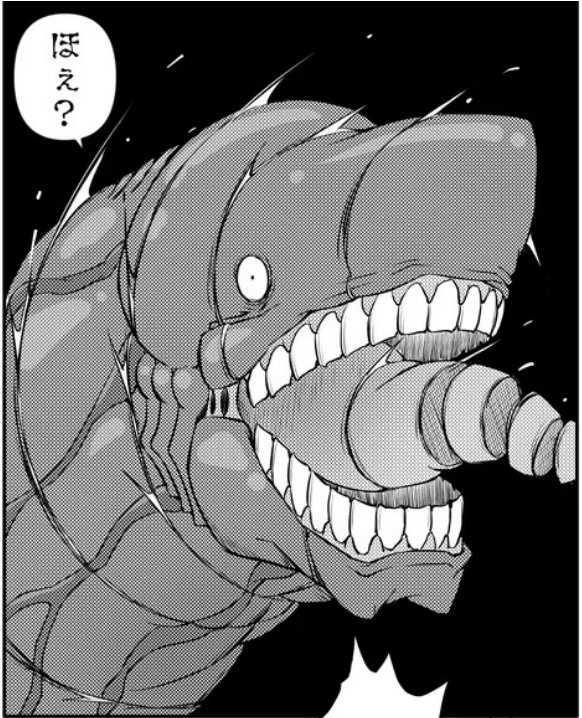
この餓鬼はなあ：

あんたを思っ
ずっと一人で悶々
としていたのさ

それを俺が
慰めてやって
るって訳



感謝して
ほしいだ
くらいだ：



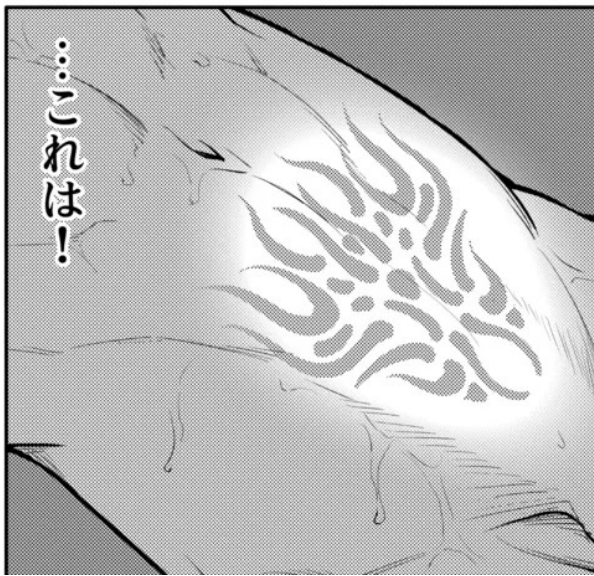
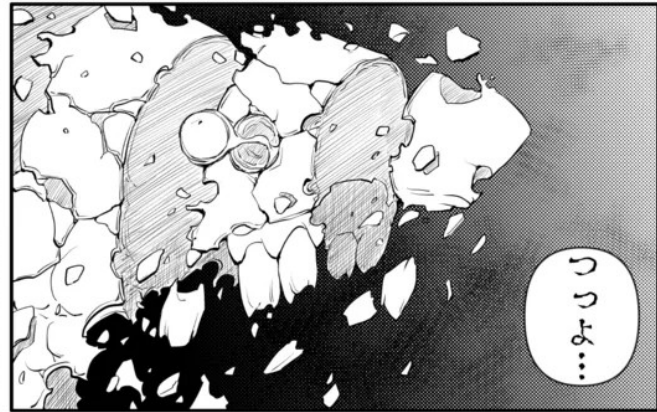
ほえ？

貴き方を
ガキ呼ばわり

何たる
不敬…



バ
ベ
エ
エ！





そいつはな
レイナー



体内に刻まれた
魔紋が暴れてるのさ

満足するまで
その疼きは
止まらねえよ



安心しな…
その魔紋が
消えるまで

俺が何度でも
抱いてやるよ



殿下…
しばし
お待ちを!





…殿下



上手くやれる
だろうか？



私に…



今、冷まして
さしあげます

その熱…

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ



人が人を
愛するは
自然の理

ご自分を
責めないで

薄々
気付いてはいた

ア!

ハイ

殿下にそのような
お心があることを...

ア!

ヒヤ

ア!

私に身を
ゆだねて
ください

今は
ただ...

ア!

アム

ア!

そういう
お年頃に...

あ...

ア!

ア!

ア!

はっ♡

ハイ

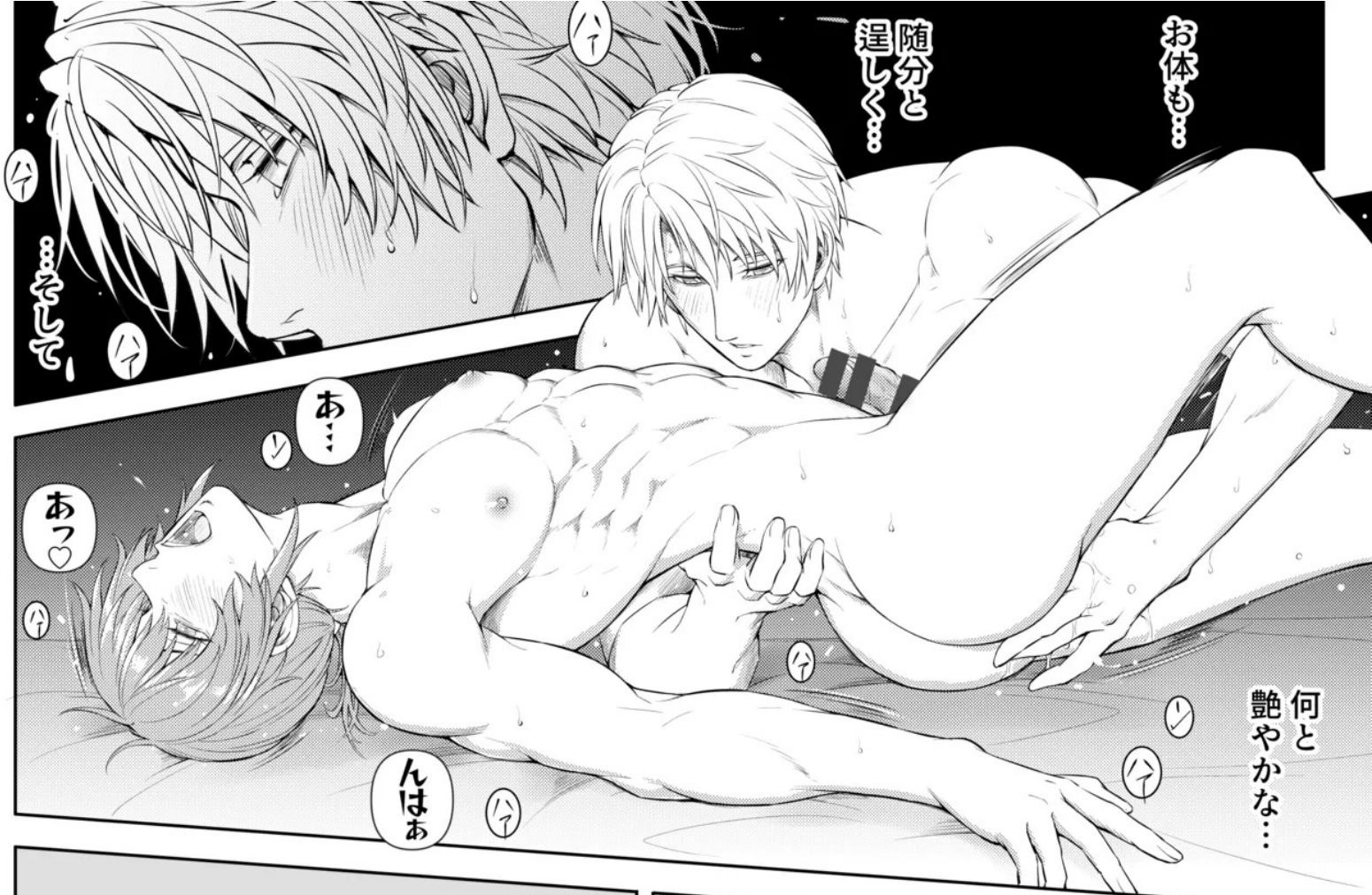
ア!

んあ...

ハイ

...なられたのだな





随分と遅し...

お体も...

あつ...

あ...

あつ♡

んはあ

何と艶やかな...



うっ...



ねえ...



落ち着け...

フ...



早く...

早く欲しいよお



初々しい
喘ぎ声と…

私を求める
言葉が…

レイ…
ナード

レイナード

レイナードオ

戦いに疲れた
心にしみわたる

…好き

好き

大好き

あああ…

気持ちいい
よおお



これは治療
…只の治療なのだ

お慕い申して
おりました…

私も！

フッ

ア

ハ

ア

ウ



初めて
お会いした
あの日…

自分に
愛らしい弟が
出来たようで

…本当に
嬉しかった

そり自分に
言い聞かしたはず
…なのに…なのに

ウ

ア

ハ

ア

ア

ハ

ハ

ア

ああ……チクシヨウ

あ……はあ……
レイナード

僕のこと……好き？

ええ……好きです

ほんと？
本当に？

あ……ん……
もう一度……
……言って

……ええ
ずっと
前から

アッ！

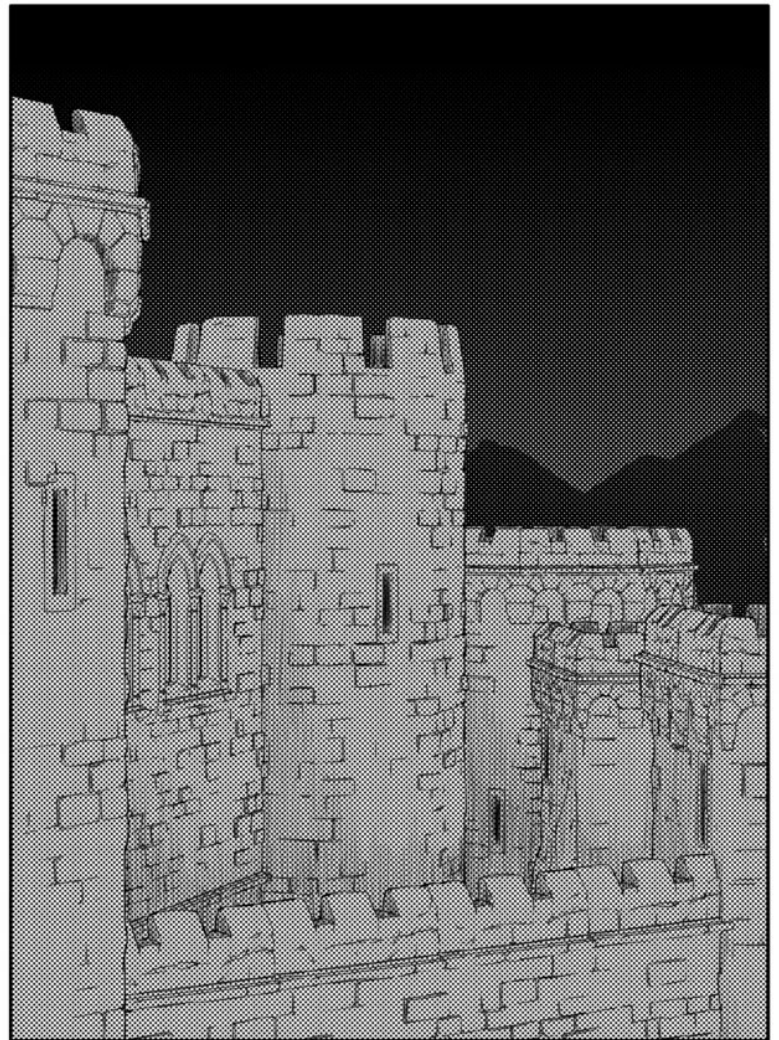
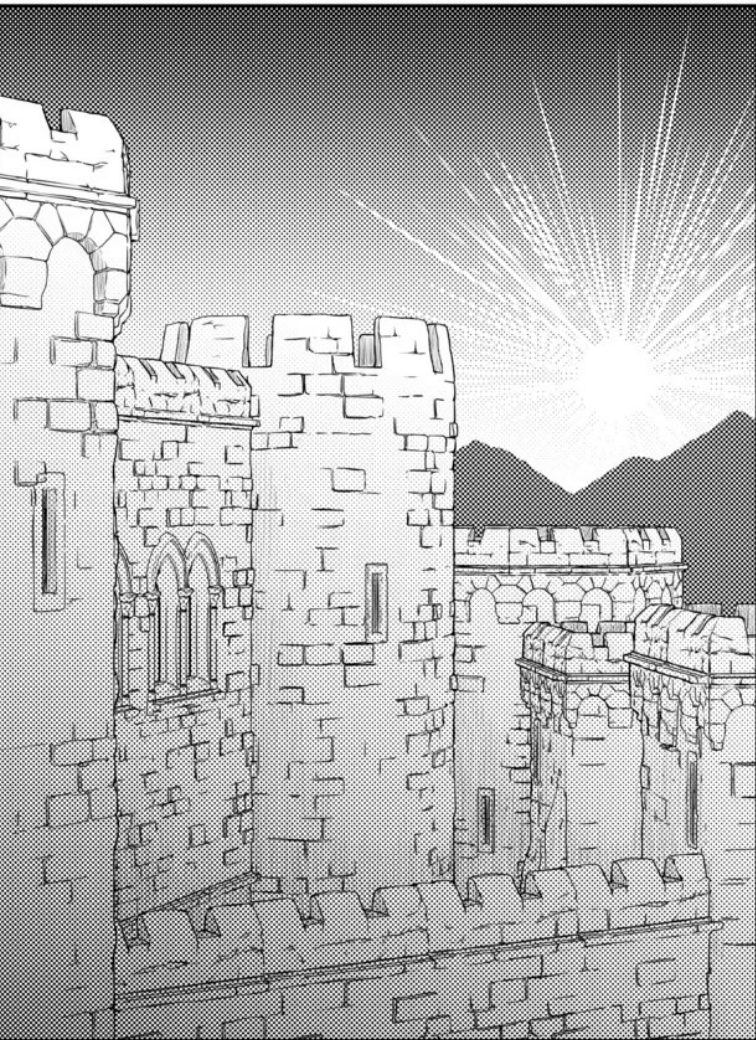
ん……あ……
レイナードオ

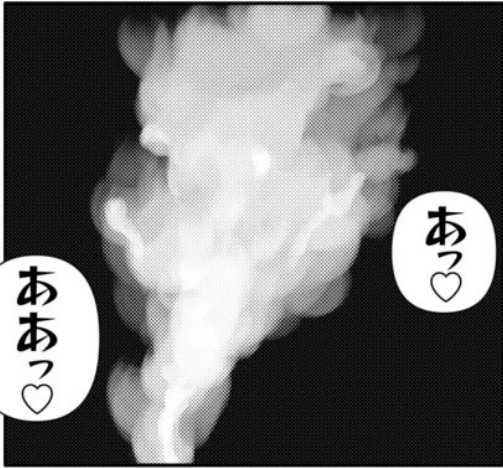
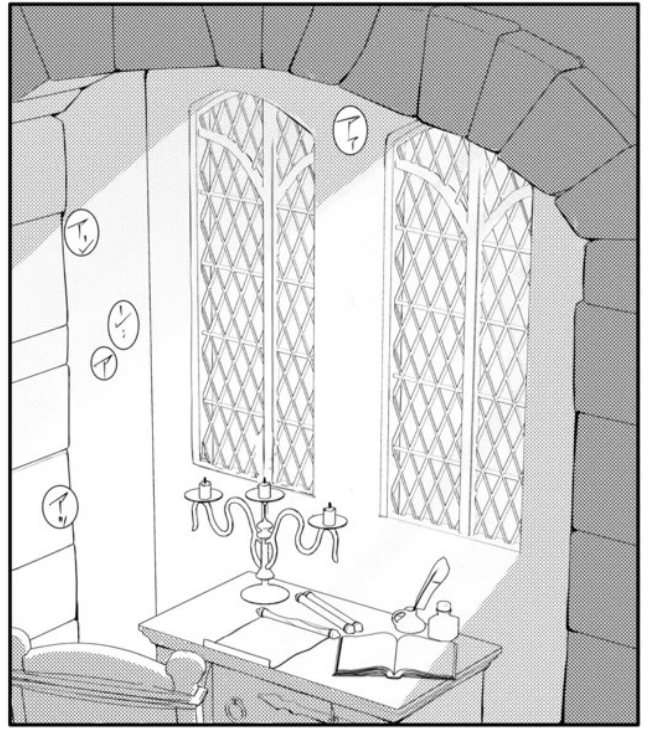
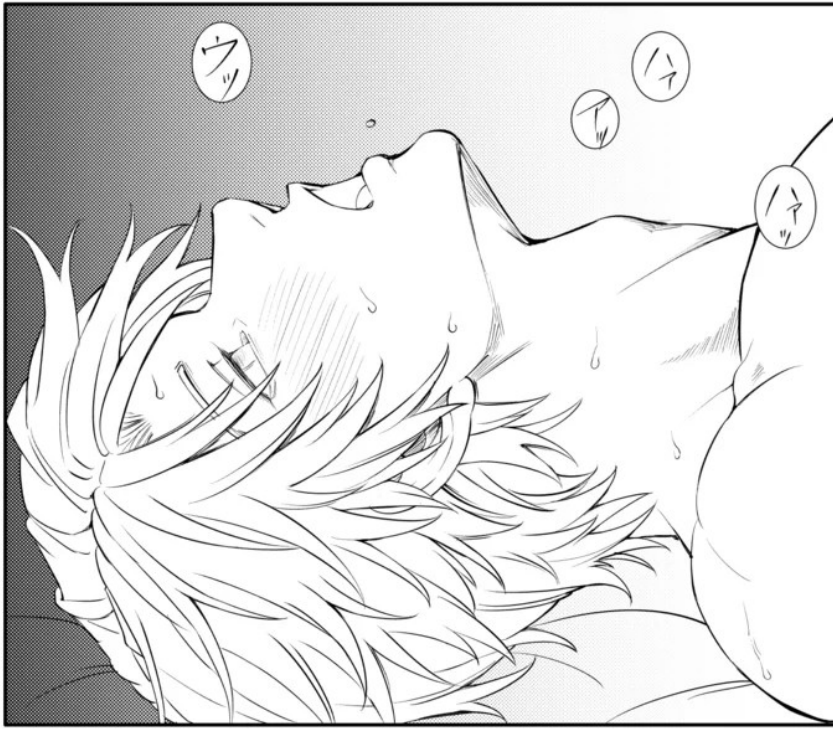
……フェリル

フェリル

……愛おしい









陛下より叙任を
賜ってから
間もない頃…

私も同じ
ような経験を
したのです

辺境の遺跡に
住みついた
ゴブリンの群れ
の討伐

数は多いが、
決して難しい
任務では
なかった…

しかし
それは
震でした

怠惰と色欲の魔神
ベルフェゴール

…かの魔神の目的は
聖騎士の魂を墮落させ
邪悪なる神に奉げること

奴に捕らえられた私は
幾日も肉体を弄ばれ
凌辱を受け続けた





魔紋の効果が
消えるまで…

私は彼に、
何度も
抱かれた

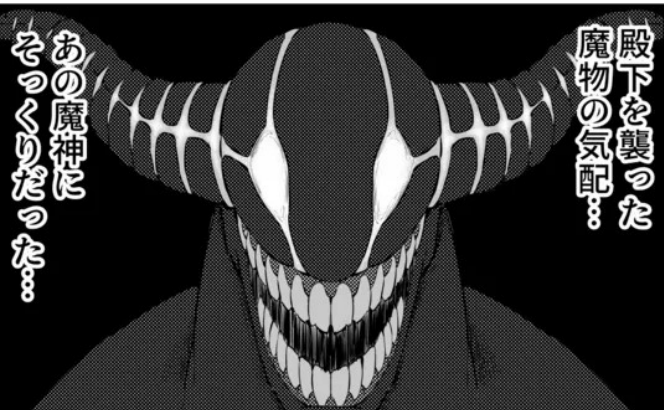


後は今の貴方と同じ…

だがある冒険者がたつた
一撃で魔神を斬り捨て
私を救ったのです



嫌な予感が
的中した…



詳しく調べる
必要が…

はい、
殿下



これ…
駄目みたい…



そしたらまた…
どんどん全身が
熱くなってきて…

止んな
くてえ…



…その
今の話…
つい想像
しちゃって

いや…



…やってしまった

…左様で



…では
今しばらく

いたしま
しょうか…

ふええええん…
ごめんよおお

レイナードオオ!

終わり

ご購入読
誠にありがとう
ございました

